平成27年度第3回「埴町地域公共交通活性化協議会」議事録

日時 平成28年3月17日（木）午後1時30分

場所 埴町農村勤労福祉会館 2階 小研修室

出席委員：19名（別紙のとおり）

（進行：鈴木係長）

1. 開会（木村副会長）
2. 会長あいさつ（園部会長）
3. 議事

園部会長が議長となり議事進行。

（1）平成27年度市町村生活交通バス運行実績について

- ・事務局より資料に沿って説明（鈴木主査）

※質疑なし

（2）田代・那倉地区デマンドタクシー実証運行について

① 田代・那倉地区デマンドタクシー実証運行の実施結果について

- ・事務局より、実証運行結果資料及びアンケート集計結果資料について説明。（鈴木主査）

<質疑応答>

（県南地方振興局鈴木委員）

- ・予約が面倒だという意見があったが、前回の実証運行の時と何か変更したのか？

（事務局）

・特に変更はしていないが、やはりバスと違って定時に来る交通機関ではなく予約が必要だということが面倒と感じるようだ。

（埴タクシー鈴木委員）

・デマンド（乗合）では料金が高いと感じるようだ。デマンドではなくタクシー料金の補助が良いと思う。

(国交省福島佐々木委員)

・運行結果を見て、65歳以上は1,000円、500円のタクシー券などにしてはと感じた。
田代・那倉地区についての運行であればだが・・・他地区との調整もあると思うので中々課題もあると思う

(ファミリータクシー鈴木委員)

・塙町でデマンドをやるならば、最低4コース、細やかに運行するなら5コースは必要になると思う。大子町では、公共交通のタクシー補助に年1100万円の予算をあげ、高齢者と障がい者を対象に実施し結果、16万円の支出だったようだ。それ以外にも65歳以上は半額にした事例もある。タクシーは同一地域同一料金となっている。学生、お年寄りを3割負担にしてもデマンドより安いし、法律に抵触もしないので運行上の問題もない。乗合ではないので、バスとの調整も必要なくなる。

② 今後の方向性について

※事務局より、委員の方からの意見を伺いたい旨の説明（鈴木主査）

《各委員よりお一人ずつ意見》

(福島交通機具委員)

・地域公共交通網形成計画により、どの交通が合っているのか。国や県からの補助を活用して、路線再編などをしていくとよいのではないか。

(塙タクシー鈴木委員)

・1500円では高い。しかし、バスが800円、タクシーが半額でも那倉は2500円。やっぱり高いという意見になる。常豊は地形がデマンドと合ったから利用数も多かった。料金についてどう理解してくれるか、町の主要部が塙厚生病院の周りになってきていて、商店街のお店も減り人が歩けない街になってきている。これを人が歩ける街にしてもらわないと利用も多くは望めない。

(ファミリータクシー鈴木委員)

・既存の交通機関を利用して、利用者の敷居が低い段階で交通機関を考えてほしいと思う。
免許返納者は、タクシー料金が1割引きになる。

(国交省郡山橋本委員)

- ・実証運行の結果を見て、サービス券のようなものが良いと感じる。

(棚倉土木高萩委員)

- ・デマンドは対象者数から見て難しいと思われる。タクシー補助などの運用が埴町ほどの規模ではよいのでは？実験してみてもどうか。

(棚倉警察署水野委員)

- ・郡内の運転免許保有の高齢者は約 5600 人いますが、内免許を返納する方は年 30 件弱。車がなくて、山奥の人はどうしていいかわからない状況もあると思うが、違反はダメである。今後、返納後の公共交通に対する助成制度について説明が必要かと思う。

(木村副会長)

- ・笹原地区は、一戸一戸が離れている。老人会がなくなっている原因の一つに集まるのが大変であることがある。年寄世帯も多いためアンケートなどもなかなか理解できない部分がある。自分でできることは自分でやるという意識が我々にも必要と感じる。

(育成町民会議笹原鈴木委員)

- ・車がないと行動できない地域である。タクシーの補助があるといいと思う。高齢者にはわかりやすく説明が必要だと思う。あると便利という声も聴いたのでうまく活用できるようにしてほしい。

(遠藤委員)

- ・玄関から玄関というのが便利という話があったが、あまり利用しない。料金や申込みについて説明してあげるとバスともうまく利用できる。町も活性化してもらって、町全体を歩けるような街にしていきたい。

(芳賀委員)

- ・那倉地区は高齢化により出不精になっている人も多いため、アンケートも出ないのではないか。町全体がそうってきていると思う。バス使用人数が少ないところで考えてはどうか。また、今の高齢者は若いので埴年齢を独自に決めてもよいのでは。

(原委員)

・実証運行の結果を見て常豊の出戸線は運行本数が少ないので、利用者も多かったのではないかと思う。那倉の路線は細目に走っている。バス停より遠い人は利用した話を聞いた。棚倉町の山本の方が免許返納したからと乗車していた。特典があれば、公共交通の利用者が増えるのではないか。今後そのような人が増えていくと思う。障がい者の方でバス利用ができなくなったり、高齢の利用者が亡くなり利用が減っている。

(社協鈴木委員)

・一年間会議に携わり、デマンドが向いていないことがわかった。バス路線の収支差額の大きいところもある。タクシー助成券もいいと思うが、路線別の交通対応の実証運行を考えては？デマンドは不向きという意見は当初より出ていたが、タクシー助成券などの対応を考えてはどうか。

(商工会芳賀委員)

・常豊、笹原、地域性の違いがあるので仕方ないかと思う。アンケートも、バスがない走らなくなるなどになれば本気になるのではないか。ドア to ドアは良いこと。必要であって利用している方もいるので、利用者・行政・お互い負担しあいながら実施。商店街の盛り上がりは難しい。少しずつ知恵を出しつつ勉強しているご理解をいただきたい。

(県南振興局鈴木委員)

・少子高齢化、人口減、なかなか難しい課題。他県の実例など委員間で共有していくべき。

(国交省福島佐々木委員)

・タクシー券がいい案とは思いますが、全地区ではないので網形成計画で最適な公共交通を地域ごとに模索していく。その前提としてバスがある、それで補助金を出していることもあるので、タクシーを使うことでバスを使わなくなって、逆に支出が増えるなどにならないように調整が必要かなと思う。

(吉岡委員)

・実証運行をしたからこそ分かったこと、費用はだいぶかかってしまったが、やったからこそ意見が出たと思う。みなさんが言っていることは当てはまると思う。地域特性、分散

型、田代・那倉はデマンドには合わない。常豊のような住宅隣接地域はデマンド向き。運行を地域に合わせて分担してやっていくことも可能。地域みんなが、集落、地域ごとでお互いに助け合って行くことが必要で、自助努力でやっていくこともありだと思えます。

商店街の話。スーパー、商店の協力を得て移動販売。今は、料金設定もスーパーと組んでやっているの、昔のようによくわからない値段ではないので、中心集めるという考えだけではなく、こちらから行くという考え方も必要。

バスの収支率も下がっている、今の計画を策定してから5年そろそろ見直しの時期としてもよい時期、網形成計画、市街地形成とリンクして考える計画づくりとなる。来年度形成計画を作りなおして町の交通計画の再編を合わせ技でやっていくちょうどいい時期ではないかと思う。交通の実態把握をやり直して、計画を作っていくいい時期である。商店街などトータルに考え直していくと新しい方向性が考えられるのではないか。

(3) その他

- ・特になし

4. その他

- ・特になし

5. 閉会（木村副会長）

(閉会)